

市民参加のまちづくりネットワーク



海とまちを結び
「三番瀬海辺のふるさと再生計画」
市民団体や大学、市との協働によるこれからの三番瀬と海辺のまちづくりについて考えるプロジェクトです。かつての海の様子や利用方法について聞き取り調査を行い、それをヒントに三番瀬の海辺の将来像を提案しています。また、塩づくりや、のりすきの体験イベントを開催しています。



海と親しみ 海を守り 海を活かす

特集

**行徳臨海部
基本構想(案)
海と海浜部編**

三番瀬と行徳臨海部 これまでの経緯

昭和44年3月～	市川市地先の埋立工事が始まる。(昭和49年竣工)
昭和48年3月	江戸川左岸流域下水道江戸川第一終末処理場が本行徳石垣場・東浜地区に都市計画決定される。
平成5年3月	市川二期地区・京葉港二期地区土地造成基本計画が決定。市川市と船橋市の土地を計740ヘクタール開発することになる。
平成11年6月9日	県が「市川二期地区・京葉港二期地区計画の見直し案」を発表。開発の計画を101ヘクタールに縮小。
平成11年7月3日	市川市が「海を再生し、市民の海を取り戻す」ことを提唱する。(広報いちかわにて)
平成12年10月30日	市川市が「市川市行徳臨海部まちづくり懇談会」を設置し、第1回会議を開催する。
平成13年4月6日	堂本知事が就任記者会見で「三番瀬については白紙撤回し、環境の視点から回復を行う」と発表。
平成13年5月14日	市川市が堂本知事に「海の再生と行徳臨海部の課題解決に関する要望書」を提出。この日、船橋市も「京葉港二期地区計画に係る要望書」を提出。両市長が堂本知事と会談し、内容を説明する。
平成13年9月26日	堂本知事が県議会で埋立計画の中止と第一終末処理場計画地における処理場建設の再検討を正式に表明。
平成14年2月17日	「市川市行徳臨海部まちづくりシンポジウム」開催。テーマは市川市民が考える「三番瀬の再生とまちづくり」。
平成14年5月13日～20日	市川市長がサンフランシスコ湾干潟の再生などの事例を視察。
平成14年7月12日	市川市が堂本知事に「三番瀬の再生と行徳臨海部のまちづくりに関する要望書」を提出。同月26日には環境大臣に提出した。
平成14年9月29日	第2回「市川市行徳臨海部まちづくりシンポジウム」を開催(予定)。
平成14年度中	「行徳臨海部基本構想」策定(予定)。



かつての豊かな干潟を再生することについて検討しています。図は、1000分の1の勾配で干潟を再生した場合のイメージ。

市川の海を知るイベント「海の見学会」
普段海と接する機会が少ない市民を対象に、市川の海の現状の理解を目的に始めたイベントです。見学会では実際に船に乗り、干潟で生物を観察します。参加者は初めて訪れる干潟に感嘆したり、生き生きとした鳥が飛び交う様子を見ます。



**市川の海の
再生をめざして**

かつて海辺に干潟が広がり、豊かな自然に恵まれ、人が海とともに暮らしていた行徳臨海部。しかし、都市化や埋め立てが進むにつれ、海や周辺の環境が大きく変化しました。過去の埋め立てや干潟の水没に伴う漁業環境の悪化、老朽化の著しい直立護岸など、早急に解決しなければならぬ問題が山積しています。市では昨年度より、行徳臨海部の

まちづくりに関するさまざまな問題を解決し、市川の海の再生と行徳臨海部のまちづくりを実現するため、その基本となる「行徳臨海部基本構想(案)」の策定作業を進めています。また、構想の実現に向けて漁業者や周辺住民、地権者、NPO、県や国などの関係機関との連携を図っています。

海と人とまちがつながるようなまちづくりを目指して、皆さんも行徳臨海部の未来について一緒に考えてみませんか？



ひとりひとりのアイデアを 形にしたい

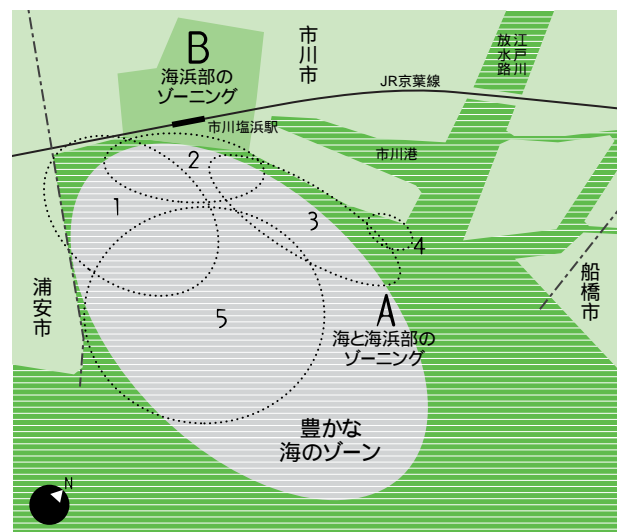
行徳臨海部基本構想(案)の策定にあたって

「市川の海にもう一度豊かな自然を取り戻し、海と触れ合える場所にしたい」。今、市では行徳臨海部の基本構想(案)づくりに取り組んでいます。この構想案は初期の段階から、市民と行政、学識経験者が協働で、問題点やアイデアを出し合って作成にあたっています。これまで懇談会やシンポジウムで話し合ってきた多くのアイデアを総合し、構想策定にあたっての基本的な方針を定めました。そこでは行徳臨海部をいくつかのゾーンに分けて考えています。視察に出かけた各地の事例も参考にしながら、具体的な海辺のまちづくり構想を策定していきます。皆さんもどんな姿がいいか、イメージしてみてください。



A 豊かで親しみのある 海と海浜部の ゾーニング

現在、市川の海はすべて直立護岸で囲まれ、海がすぐそばにあるにもかかわらず、自由に海と触れ合うことができません。また、昭和40〜50年代の市川一期地区埋立事業の際、市川二期地区(案)の埋め立てを前提につくられた暫定的な護岸は老朽化が進み、平成13年9月に台風15号が関東地方を直撃したときには、延長約50メートルにわたって陥没が発生しました。また、護岸の高さも不足していて、高波に対する備えも十分ではありません。そこで、災害にも強く、自然にも優しい、市民が海に親しめるような環境を整えていかなければなりません。海と親しむことで、海を大切にすることも育まれるのではないのでしょうか。



A3 漁業の安定と継続を図るゾーン

漁港など漁業施設の機能を向上させ、市民と共存する都市型漁業としての振興を進めていきます。

A4 漁港ゾーン

漁港の位置と規模を、漁業の振興や海域環境の改善に適切なものとなるよう整備したいと考えています。

A5 漁場修復ゾーン

青潮対策をはじめ、干潟・藻場の再生、潮流の改善などの漁場修復を進め、のり、アサリ、カレイなどがとれるような、かつての豊かな漁業生産力の回復を図ります。



山口県防府市三田尻湾人工干潟干潟でアサリを使った水環境改善の実証実験を行っています。

A1 アシ原・干潟・藻場の再生ゾーン

アシ原・干潟・藻場を再生し、かつての豊かな海を取り戻したいと考えています。再生事業を行うときにはできるかぎり市民と協働で、自然の知恵と力を借りながら進めていきます。



サンフランシスコ湾バロ・アルト・ハーバー・ベイランスでは、ヨットハーバーに水底をさらってできたしゅんせつ土を入れて人工干潟をつくり、湿地植物の植栽も行っていました。

A2 市民が親しめる海辺のゾーン

海辺へのアクセスを容易にし、魅力的で歩きやすい護岸や潮干狩りができるような干潟、波打ち際で遊べるような砂浜などを整備したいと考えています。



横浜市の海公園。千葉の山砂を使ってつくった砂浜と干潟。海水浴に訪れる人も多く、親しまれる海辺になっています。

いろいろな立場の人が集う 行徳臨海部まちづくり 懇談会

平成12年10月、市は行徳臨海部のさまざまな問題に取り組むため、地元住民、学識者、市民団体、漁業者、地元企業の代表者など、いろいろな立場のかたの意見交換の場として、懇談会を設置しました。

行徳臨海部のまちづくりの方向性を検討するため、これまで7回の懇談会と、1回のシンポジウムが公開で開催されています。

懇談会で話し合ってきたことを基に、9月29日に行われる予定の「第2回行徳臨海部まちづくりシンポジウム」で、市民の皆さんと一緒に、行徳臨海部のまちづくりを検討していきます。



みなさまの VOICE

行徳臨海部まちづくり懇談会に出席されている委員を代表して2名のかたの声を紹介します。



ガラス張りの議論が大切

西村幸夫さん
にしむらゆきお
東京大学 工学部教授

平 成12年度より、行徳臨海部を「市民が親しめる水辺」として取り戻すために、地元自治会をはじめとして、環境保護団体のメンバーや漁業者、工場や倉庫のある地区の関係者からなる市川市塩浜協議会、青年会議所、学識経験者などからなる行徳臨海部まちづくり懇談会を立ち上げ、現在までに7回の会議を完全公開でおこなってきました。三番瀬をどう再生するかという問題からいわゆる行徳富士の扱いまで、多くの課題を議論してきていますが、これまでの議論をふりかえって一番の成果だと思うのは、市や県の動き、各団体の思いなどを全員が共有することによって、不要な思わくや思い過ごし、誤解などがぬくい去られ、異なった立場のかたの意見にも耳を傾けながら、前向きに議論するという姿勢が固まってきたことだと思います。議論を完全にオープンにすることによって議論が鍛えられてきているのです。結論にはまだ少し距離がありますが、こうした輪ができたことこそ、これからの行徳のまちづくりの第一の財産だと思います。



これからは行徳の自然を修復する時代

風呂田利夫さん
ふるたとしお
東邦大学 理学部教授

市 川市の海辺は行徳です。そこには埋め立てを免れた浅瀬、三番瀬があります。この三番瀬に潜ると、一面に広がるアオサの間にカレイやハゼの稚魚を見ることができます。三番瀬は今でも生きています。しかし、三番瀬の海岸はすでに埋め立てられ、住民が干潟を見ることがほとんどありません。もともとの行徳海岸は広大なヨシ原の広がる河口湿地と干潟でした。現在の人工護岸は、住民と海との関わりと干潟の生物の生息を拒絶しています。行徳にその原風景である湿地や干潟と、そこに住む生物を蘇らせることは、市川に環境修復を通した新たな歴史と文化を創り出すこととなります。自然を修復することは決して楽なことではありません。今いる生物の犠牲は避けられません。また環境修復は恒久的な時間をかけて試行錯誤をくり返さなくてはなりません。しかしその修復に向けた行動を、東京湾を守り、市川に海と住民との新たな関係づくりとすべき時代はすでに来ていると思います。

ここで見られる 行徳臨海部の情報

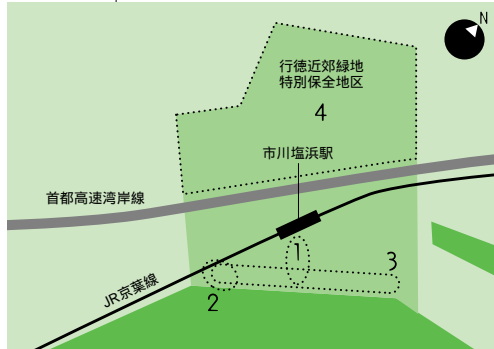
ホームページ

三番瀬と行徳臨海部についての理解を深めたいときには、「市川の三番瀬と行徳臨海部のまちづくり」のホームページへ。これまでの経緯、現状と課題、行徳臨海部構想(案)、過去に行われたシンポジウム、懇談会の内容など、さまざまな情報が充実しています。
<http://www.city.ichikawa.chiba.jp/net/tosiseisa/ichikawa2/rinkai.htm>

閲覧所

行徳臨海部に関する情報は、市政情報センター、中央図書館、行徳図書館、大野公民館、女性センターで閲覧できます。今まで行われた懇談会やシンポジウムの議事録も文書で公開していますので、これまでの発言内容や会議の進行状況など、より深く内容を掘り下げたいときに便利です。

B まちづくりを推進 海浜部の ゾーニング



昭和63年に開業したJR京葉線の、市川塩浜駅周辺地区は、三番瀬と行徳近郊緑地の間に位置しています。現在、駅周辺は工業専用地域に指定されており、工場や倉庫が広がっています。昭和61年に市川二期地区基本計画(案)が示され、駅前にふさわしい土地利用が検討されてき



サンフランシスコ
ギャラリーのある海岸通り。



B1 シンボルゾーン

「行徳の海といえば?」と聞かれてすぐに思い浮かべられるような場所を目指しています。海辺のまちとしてにぎわう商店やレストラン、海浜公園や、近郊緑地と海を結ぶ歩道の再整備を考えています。

サンフランシスコ
フィッシャーマンズワーフは、とれたての魚介類を買ってその場で食べられる店がたくさん並んでいます。

ました。しかし、埋立計画が定まらなかったために、再整備をなかなか進められずにきました。現在、市では海の再生を前提に、改めて市民の皆さんや地元企業のかたがたと協力して、魅力的なまちづくり構想の策定に取り組んでいます。

B2 ふれあいと学びゾーン

海と親しみ、海について学べる環境学習の場、東京湾全体あるいは海に関する研究の場にしたたいと考えています。同時に運営に関わる人材育成を進めていきます。

東京湾野鳥公園
(東京都大田区)
体験学習施設があり、淡水池や干潟に生きる生物の観察ができるようになっています。

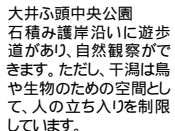


B3 散策ゾーン

まちと海をつなぐ遊歩道やサイクリングロードを設けて、海と親しめる場を提供したり、海浜公園をつくってゆとりのある空間の演出を進めていきます。



横浜市野鳥公園
遊歩道のかたわらには、バーベキューなどの野外活動を楽しめる施設が整っています。



大井ふ頭中央公園
石積み護岸沿いに遊歩道があり、自然観察ができます。ただし、干潟は鳥や生物のための空間として、人の立ち入りを制限しています。

B4 行徳近郊緑地

海水の交換を行い、良好な湿地帯を再現し、野鳥を始めとする生物の生育に適した環境づくりを目指します。また、海と近郊緑地、市川塩浜駅とのアクセスの確保を進めていきます。



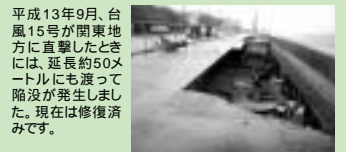
千葉県谷津干潟
特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約「ラムサール条約」に登録されている自然の干潟です。

どんな 護岸がいい?

市川市の護岸改修のイメージ図



現在の直立護岸は高さ5メートル弱。県の試算によると、直立護岸は8メートル、砂浜を設けた場合の護岸は6メートルの高さが必要とされています。



生態系に配慮した護岸断面



海浜植物、アシ原、干潟、藻場と続いているイメージ。

人の利用を考えた護岸断面



市民が親しめる護岸として階段護岸と遊歩道、さらに海浜、干潟と続いているイメージ。

人の利用を考えた護岸断面



石積み護岸にすることで、安全確保だけでなく、多様な海辺の生物の生息場所にもなるイメージ。



今回のおすすめ
行徳の海 ~ 江戸前 ~



スズキ
活きのいい江戸前のスズキは底引き網でとれます。

アサリ漁の舟
アサリ漁は、大抱きカゴを砂の中に15~20センチ入れ、くいきいと振りまわす。まずは重たい大抱きカゴを持つのが大変な過酷な漁です。



「毎年、おいしいね」と言ってももう今年も食べさせてあげたいです。思いです。のりはその日にきて出来が違ってくる。今回ののはおいしい」と言われたりもしますよ。でも、

案内人募集

案内人として紙面に登場し、いちかわの名所や名物を紹介して下さる市民の方を募集しています。おすすめの名所や名物、お気に入りの場所を巡るツアーの内容と、住所、氏名、電話番号をご記入の上、はがき、FAX、メールでお知らせください。こちらからご連絡させていただきます。
(応募者多数の場合は、抽選により案内人を決定いたします。)
〒272-8501 市川市八幡1-1-1
市川市役所 企画部広報課
FAX / 047-336-2300
Eメール /
koho@city.ichikawa.chiba.jp

意見募集

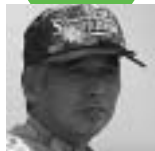
「行徳臨海部基本構想」について

広報いちかわ日曜版「フォーラムアイ」では、市川市の様々な事柄について、市民の皆様とともに考えていきたいと思っております。今号で特集した「行徳臨海部基本構想」についての市民の皆様からのご意見、ご提案をお待ちしております。住所、氏名、年齢、職業、電話番号をご記入の上、はがき、FAX、メールで企画部広報課までお寄せください。できるかぎり紙面に反映させていきたいと思っております。(添削する場合があります。)
〒272-8501 市川市八幡1-1-1
市川市役所 企画部広報課
FAX / 047-336-2300
Eメール /
koho@city.ichikawa.chiba.jp

私の知っている 名所・名物をご紹介 おすすめ いちかわ

Sunday
TOWN GUIDE

案内人



市川市行徳漁業協同組合 専務理事
藤原孝夫さん
46歳。21歳から40年間、のりやアサリ漁を営んでいる。現在、市川市では海洋少年団 副団長、市川市環境審議会委員なども務めている。



南行徳漁業協同組合 会計理事
石井強さん
50歳。16歳から50年間、行徳の海でアサリ漁に携わっている。そのうち22年間は底引き網漁、28年間はのり漁。現在でも現場の漁師として海に出ている。

取り戻したい 日本一を誇るのりやアサリが とれる江戸前の漁場

「昔、同じく江戸前にはいませんが、どこかあるのりやアサリは本当においしいですよ。江戸前といわれるよそにはない味わい、のりには甘味があつて、多分、全国で一番じゃないですか(石井さん)。
「今年の初入れでは、行徳のりが千葉県でトップの値でした。漁場が安定していれば、それくらい良いのりがとれるんです(藤原さん)。
そんな自慢の味を味わいたお客さんからお問い合わせと電話をもらったり、指名で注文がきたり…。そんな時が一番うれしく、お二人の励みになっているそうです。
「毎年、おいしいね」と言ってももう今年も食べさせてあげたいです。思いです。のりはその日にきて出来が違ってくる。今回ののはおいしい」と言われたりもしますよ。でも、



アサリ
4センチほどの大粒のアサリがとれます。

コンブ
今年の冬は、コンブの養殖を試験的にはじめ、よくのびで6~6メートルに育ちました。「コンブが育つ栄養源があるってことだ。」と石井さん。

「その声はほんとに嬉しいです。お二人の願いは、埋め立て前の海を取り戻すこと。埋め立て後は潮の流れが悪くなつて、のりが育たず生産できません。魚もめづり来なくなり、元に戻すことは無理でも、80%くらい戻てくれたら、若い人がここで漁業がしたいと思えるような、魅力のある海を残したいですね(藤原さん)。

読者の広場

フォーラムアイNo.14で特集した「学校週5日制」についての「ご意見を紹介します。」
ここに掲載したものは市内の小学校で見た父母のアンケートから抜粋したものです。

ゆとり教育は日本では無理な制度

文部科学省が勝手に決めた週休完全2日制にはもともと反対です。アメリカのような(あちらは宗教があるからですが)精神面の糧となる日曜学校なども日本には存在していません。日本では無理な制度だと思えます。ゆとり教育の先端をいつていたアメリカが、そのゆとり教育がすでに破綻しているの聞いていますか、日本は大丈夫なのではないでしょうか?

自由でもよいのでは

平日に部活や習い事で時間をとられている子どもにとつて、1日自由にしてできる時間があつてもいいのでは…。部活、習い事の時間を増やすための土曜休みではないのだから。

家庭で検索することが大切

休日の過ごし方については、家庭でどう過ごすか子どもたちとともに検索しながら考えることが

本来の5日制の意義だと思つ。親も情報に頼りすぎ、身近なものからいろいろと探してみよう。たくさん経験させたいことが山ほどある。でも、まずは子どもが自ら欲するうちに、そんな子どもに育てたいと私は考えています。

子どもの学校での様子がわかりにくい

この制度が良いのか悪いのか判断はできませんが、学校での(今まで土曜日に行っていた)行事などが制限されているような気がします。普段、仕事などで学校に来ることのない父兄にとっては、子どもの学校での様子がわかりにくくなっているのではないかと感じます。

参加募集

第8回行徳臨海部まちづくり懇談会を開催

行徳臨海部のまちづくりの方向性をさまざまな立場の人が集まって検討するまちづくり懇談会が公開で開催されます。
日時:平成14年8月30日(金)
午後6時15分~午後8時15分
場所:行徳公民館 集会室

三番瀬まつりを開催

「三番瀬海辺のふるさと再生計画」プロジェクトの一環である三番瀬まつりが今年も開催されます。海の見学会で採集した生物の研究成果の発表や、塩づくりなどの体験イベントを予定しています。秋の一日を海辺で過ごしてみませんか。
日時:平成14年10月6日(日) 予定)
場所:塩浜多目的運動広場

第2回行徳臨海部まちづくりシンポジウムを開催

行徳臨海部基本構想(案)策定に向けた、市民の声を構想に反映させるために、シンポジウムを開催します。みなさんも一緒に行徳のまちづくりについて考えてみませんか。
日時:平成14年9月29日(日)
午後2時から午後5時(予定)
場所:市川市市民会館 ホール

市川三番瀬クリーンアップ大作戦を開催

平成11年に「みんなで楽しくゴミ拾い」を合言葉に始まった「市川三番瀬クリーンアップ大作戦」が開催されます。市川の護岸をみんなで楽しく綺麗にしてみませんか。
日時:平成14年10月20日(日) 予定)
場所:塩浜多目的運動広場